

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|--------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ニチイ学館の社是、経営理念を基本に捉え、ホームの目標を持って実践に繋げている。 | 社是である「誠意・誇り・情熱」や経営理念を事務所に掲示し、毎月のホーム会議で唱和し互いに確認している。ホームとして月毎の取り組み目標を決めて評価しながら翌月の目標を検討・作成している。そうすることで職員間の意思統一を図り日々のケアに具体的に活かしている。家族にも利用契約時に理念についての説明をし、今のところ理念にそぐわない職員の言動等は見られないが、何かあれば管理者が注意するようにしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 区長さん、民生委員さんにご協力いただき、近隣の皆様と交流をすすめている。地域行時やイベントに参加したり、ホームの行事に参加いただいたり、地域の皆様との交流の機会を持っている。 | 町会に加入し会費を納め、地区行事に参加している。近くの大門神社祭りではホーム前が休憩所となり利用者は神輿や踊りを楽しみ、飲み物や菓子で踊り手などを接待し交流を深めている。ホームの祭りや見学会にも地域の方が来訪されている。保育園児の来訪やボランティアによる紙芝居や歌、三味線演奏等で地域の人々とふれあう機会も持っている。近くの高校生による雪かきボランティアがあったり近所からのネギやダイコンなどの野菜の差し入れもある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ホームの行事へ地域の皆様に参加していただき、ご入居の皆様と交流し、支援の様子などを見ていただき、認知症の方の理解や支援方法を伝えていけるよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | ホームの現況・活動・取り組み状況などの報告。意見交換して、サービスの向上に活かしている。地域参加へもつながっている。 | 年6回開催している。会議には家族、区長、民生委員、協定医(内科、歯科)、訪問看護師、市役所長寿課職員、法人支店課長、ホーム管理者・ケアマネジャー・ユニットリーダーが出席し、利用者状況、活動報告のあと活発な意見交換が行われている。協定医からは認知症とその対応についての具体的な助言があり、運営やサービスにも活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者への相談、報告やアドバイスをいただき、連携をとりながら取り組んでいる。 | 何かあれば市長寿課と連絡を取り合っている。認定更新時には市の担当者が来訪し、同席できる家族もあり共に利用者の暮らしぶりを伝え連携を深めている。市主催のケアマネジャー研修会にも参加している。介護相談員は3ヶ月に1回来訪し、利用者の話を聞いていただき、後日、状況を知らせていただくことでケアに役立っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ホーム会議、ユニット会議の話し合いやマニュアルを確認しながら、身体拘束への理解を深め共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。 | 法人の方針により、本年からは防犯、安全面で家族の理解を得て玄関は施錠している。外出傾向の強い方については話を聞きながら、一緒に散歩して気分転換を図るようにしている。夜間は家族の理解を得て、転倒予防のためにセンサーマットを使用される方が若干名おられるが、職員はこまめに訪室し排泄誘導等に関わっている。法人の身体拘束や虐待防止についてのマニュアルを基に定期的に研修会や話し合いを持ち、全職員で取り組んでいる。 | |

ニチイケアセンター塩尻

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ホーム会議、ユニット会議の話し合いやマニュアルを確認しながら、虐待について理解し、虐待が見過ごされることがなく相談できる環境であるよう努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ホーム会議で勉強会を持っている。現在、成年後見制度を利用されている入居者様はいらっしゃらない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の申し込み時から十分な説明に心がけている。契約・解約時には不安や疑問点を尋ね、入居者様・ご家族様が納得して契約を締結・解約できるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日頃からご家族様に入居者様の様子をお伝えするよう心がけ、ご家族様からお話を聞く機会を多く持つよう努めている。また、面会時など、意見・要望を伝え易い関係・環境になるよう努め、運営に反映させている。 | サービス相談窓口や苦情受付窓口について家族に説明している。ほとんどの利用者が言葉や態度で意思表示できている。また、日々の様子からも不満等を受けとめている。家族の来訪は毎日から2ヶ月に1回と様々であるが、来訪時に意見や要望を伺いサービスに反映させている。運営推進会議のあとに家族会を開いており、毎回通知を出して話しやすい雰囲気を作り意見を伺うが、出席数はやや少ないという。毎月の請求書に利用者の活動状況やお知らせ文を入れ様子を伝え要望を伺うようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃から、職員の意見・提案に耳を傾けるよう努め、ホーム会議・ユニット会議においても意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。 | 月1回、ユニット会議とホーム会議を開き、職員同士、活発に意見交換を行いケアに反映させている。管理者は日頃から職員がコミュニケーションをとれるように心がけたり、LINEを使ってタイムリーに情報発信をしている。人事考課制度やキャリアアップ制度が導入されており自己評価とともに管理者による個人面談も行われ、職員の意見・提案等を運営に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日頃から職員とのコミュニケーションに努め、良い点、改善点などその場で伝えられるよう心がけている。キャリアアップ受験を勧めている。面談やホーム会議・ユニット会議を通し、職場環境・条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会・講習会への参加を促し、ホーム会議での勉強会を持っている。チームワークを通じて、ケアの実践や力量による課題にも取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会・講習会へ参加し、同業者との交流の機会を持ち、情報を交換し、より良いサービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居される前のご本人の生活の様子や環境を把握し、ゆっくりとご本人とコミュニケーションが取れるよう心がけ、ご本人の安心に繋がるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ホーム見学や申し込み時から不安や要望などをゆっくり伺うよう心がけ、信頼関係が築いていけるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 申し込みや面談時から、ご本人やご家族を含めた状況や要望の把握に努め、福祉用具や、外出支援などの他のサービスの提案、支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の思いに気づき、思いに添えるよう努め、一緒に考えたり活動したりして、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人、ご家族ともに入居されて良かったと思っただけのようなサービスを目指し、ご家族へのこまめな連絡とご意見をお聞きしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご自宅での生活と変わらずにいつでも親戚や友人、知り合いの方など面会、外出を行えるよう、環境作りに努めている。 | 馴染みの人や場所の関係が途切れないようにと、契約時にいつ来訪されてもいいと働きかけている。利用者は友人や親戚の方の来訪があると話をし楽しまれている。家族と一緒に馴染みの美容院に行かれる方もいる。また、ホームでも利用者同士親しい付き合いができて、新しい人間関係もできています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ホーム会議やユニット会議などを通じて、入居者様同士の関係を把握し共有し、互いに良い関係を築けるように手助けや配慮して支えあえるような支援に努めている。 | | |

ニチイケアセンター塩尻

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、来所された時に話をしたり、入院先のケースワーカーと連携をとったり、いつでも相談していただけるような関係が築けるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の思いに気づいていけるようコミュニケーションに努め、ユニット会議でご本人の要望、思いなど共有し、話し合っている。 | 日々の関わりの中で声をかけたり、選択肢を示して選んでいただくなどして思いの把握に努めている。言葉や表情からも思いを確認し、利用者の情報はスタッフノートに記入して共有し、常に利用者にとってどの様に暮らすことが良いのかを話し合っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族の話や活動の様子などを通し、センター方式シートを用いて把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の介護記録、アセスメントシートから、情報を共有している。変化があった時は休みのスタッフに連絡している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ユニット会議で具体的なケア場面に反映できるように話し合っている。入居者様の担当を決め職員全員で関わっている。 | 各利用者の担当はいるが、職員全員で意見交換しアセスメントとモニタリングをしている。計画作成担当者がまとめを行いユニット会議で家族の思いも反映させながら話し合い、利用者主体の計画作成に取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やケアの実践など、介護記録に記入し、職員間の申し送りノートを使用し、入居者様の変更事項や連絡事項など共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 変化する状況にも柔軟に対応できるように、職員間の意見交換を大事にしている。勉強会や話し合いの場を持ち、より良いサービスに繋がるように努めている。 | | |

ニチイケアセンター塩尻

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源の把握に努めている。地域や近隣の皆様に恵まれて積極的に交流を図っており、安全でゆたかな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協定医の往診が月1回あり、医師とホームの信頼関係ができています。ご家族とこまめに連絡をとり連携をとっています。専門医などのかかりつけ医は、希望で受診継続されており、ご家族と連携をとっています。 | ほとんどの利用者はホーム協定医による月1回の往診を受けている。利用前からのかかりつけ医を受診している方は家族が付き添い、双方で情報提供できる用紙を使い連絡をとっている。協定医は緊急時の対応も可能で、内科・歯科医師共に運営推進会議にも出席していただき専門家の立場からの助言も頂いている。24時間対応の訪問看護師が毎週火曜日に来訪し利用者全員の健康管理を行い、必要時、協定医との連携をとるなどの対応をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回訪問看護で情報の交換を行い、健康、医療に関する相談や指導をいただいている。日頃の介護に活かし、適切な受診や看護を受けられるように支援している。緊急時も相談や対応していただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先の医療ソーシャルワーカーと連携をとっている。入院先に訪問し、現状を把握するとともに情報交換を行い、退院に向けての対応などスムーズに進むよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人・ご家族の思いを大切に、主治医・訪問看護師とともに、話し合いを繰り返している。ご家族に協力のもと、ホームでできることをお伝えしながら、ご本人・ご家族・医師・看護師とともに方針を共有して、チームで取り組んでいる。 | 法人としての「重度化した場合に係る指針」があり、契約時に説明して同意書を取り交わしている。状態の変化にあわせて本人や家族の思いを受け止め、協定医、訪問看護師と共に話し合い、連携をとりながらチームとして取り組んでいる。開所以来、5名の方の看取りをさせていただいている。訪問看護師による職員への看取りの研修も実施している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ホーム会議やユニット会議で事例検討や、緊急時の対応について確認し、勉強会をもっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署や近所の皆様の参加をいただき、避難訓練・初期消火訓練を行っている。区長さん、民生委員さんや地域との協力体制を築いている。 | 年2回(6・11月)火災と地震を想定して訓練を実施している。また、消防署や地域の区長、民生委員、近隣の方々の参加、協力をいただき実施している。火災想定時は出火場所を決め避難経路を想定し、身体機能にかかわらず利用者全員が外に避難している。職員は毛布、布団等を使って一人ひとりの避難方法を常に検討し実践につなげている。地震想定時にはテーブルの下で1分間じっとする訓練なども行っている。食料品等の備蓄は5日分あり、緊急対応マニュアルや連絡網もあり常に確認している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりを尊重し誇りやプライバシーを守る事はいつも根底にあるよう繰り返し職員に働きかけ、そのような言葉がけや反応ができるよう努めている。 | プライバシー保護と個人情報管理については研修会やマニュアルがあり、職員の人権意識を徹底している。呼びかけは、利用開始時に家族にも確認して基本的には苗字に「さん」付けでお呼びしている。居室に入る時も必ずノックと声がけをし、利用者がホールにいるときにも声がけてから入室をしており、利用者の気持ちを大切に考えたケアに努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人が思いや希望を表し易いように、また、自己決定ができるような、ご本人に合った言葉がけや環境作りに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活のリズムやペース、思いを大切にし、希望にそった時間を過ごせるよう支援ができるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人のその人らしさを大切にし、思いに気づき、身だしなみやおしゃれができるよう、ご家族様とも相談しながら支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 片付けは毎日の日課になってお願いしている。食事が楽しみになるよう心がけ、季節の食材や行事に合ったものを取り入れている。 | 献立は食材を見ながら職員が考えている。週2回、スーパーから発注した食材が配達され、特に魚は骨抜き物が近くの商店から届いている。ほとんどの利用者は箸を使って自力で摂取されている。利用者は食事前の台を拭くことから食後の食器の片付けまでお手伝いしている。イベント食として利用者の希望に沿い、おはぎ、寿司、ウナギなどを提供しており、利用者も楽しみにしている。近所からの差し入れやホームのミニ菜園からの野菜も食卓に上るといふ。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの摂取量を毎回記録し、日々の介護に活かし、その日の体調にも合わせた食事を提供している。食事・水分が摂れない方やその機会が増えており、工夫しながら少しでも摂れるように心がけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの状態を把握し、適切な口腔ケアが行えるようユニット会議などで話し合っている。ご本人ができるところはしていただいている。協定歯科医による歯科診断や相談ができています。 | | |

ニチイケアセンター塩尻

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの状態を把握し、ご本人の思いに添い、その方にとって適切な排泄支援が行えるよう日々の介護中やカンファレンス内で話し合いを行い、職員間で情報を共有し、自立にむけた支援に努めている。 | 半数近くの利用者は自立している。リハビリパンツやパット類も利用者に合わせて使用しているが、トイレでの排泄を大切にしたい支援をしている。夜間、トイレに行かれる利用者は転倒リスクが高いので排泄チェック表を用い、できるだけ訪室回数を増やし声かけ、誘導するなどの支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 協定医や訪問看護師より、アドバイスや指示をいただきながら、入居者様の個別のカンファレンスを行い、排便コントロールに努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 希望に沿った時間に入浴できるよう、できるだけ、入浴前に入居者様に相談してから入浴にお誘いしている。 | 週2回以上入浴支援をしている。湯は一人毎に入れ替えている。自立しているが見守りをする利用者が半数以上で二人介助が必要な方も若干名いる。車いす利用者は立位保持が不安定で浴槽での入浴が困難なためシャワーチェアに対応している。入浴を拒む方には時間帯や言葉かけを工夫し徐々に入れるように支援している。菖蒲湯などは好評で利用者も楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の体調や生活習慣を大事にして安心して気持ちよく休めるよう、支援している。主治医、協定医とも連携をとり、相談している。夜間のごまめな見回り・見守りを心がけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬支援について、皆で事例検討、再確認して取り組んでいる。薬の作用、副作用の理解、症状の変化の確認など、全職員が共有していけるよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前のアセスメント時の聞き取りから、その方の役割、趣味、嗜好などの把握に努め、入居後も継続していけるよう、また、新たな楽しみを見つけていけるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 職員間で外出支援の意識を高め、ご家族にもご協力をいただきながら、できるだけ外出の機会を持つよう、努めている。 | 自力歩行、歩行器や杖使用、車いすを使って外出する方がほぼ三分の一ずつという状況である。地域の玄蕃祭り、大門神社祭り、ハロウィンイベントには家族の協力も得ながら出かけている。春には順番で近所の桜を見に職員と出かけ楽しんでいる。テラスに椅子を用意して外気浴をしたり、花壇づくりにお誘いしたりと気分転換の機会を作っている。 | |

ニチイケアセンター塩尻

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | おこづかいは基本的に事務所でお預かりしているが、ご本人の希望に沿った買い物などができるよう配慮している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙が定期的に届くことがある入居者様が、返事を書いている。電話は、ご家族の希望や様子をうかがいながら、ご家族の状況に配慮しながら支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様が不快に思われぬ、また安全に過ごしていただけるよう、環境設備をすするとともに、心地よい生活空間になるよう、会議などでも話し合っている。季節感を取り入れた共同制作作品など、居心地良い環境作り心がけている。 | 居間兼食堂は広く、一角が和室になっている。テラスやバルコニーからの暖かい日差しや風が感じられる。壁には利用者の貼り絵や塗り絵等その時期の作品が飾られて季節が感じられる。庭には色とりどりの苗が植えられて明るい気持ちになり、隣にはミニ菜園スペースもあり利用者がお手伝いできる環境にある。テーブルの下には手作りの足置き台があり、利用者の居心地の良さを考え工夫してあり職員の優しさが感じられた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者様同士の様子を把握しながら席の位置や環境作りの工夫に努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具や大事なぬいぐるみ、写真などを活かし、ご本人、ご家族と相談して、快適な空間作りを意識している。 | 表札には名前とともに折り紙等のワンポイントが添えられている。室内には備え付けのクローゼットがあり、エアコンによる温度管理がされている。ホームが提供しているベッドもある。一人ひとり使い慣れた寝具やテーブル、椅子等が持ち込まれて使いやすく配置されている。お気に入りの写真や手作り作品なども置かれ温かい雰囲気が感じられる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者様の「できること」「わかること」を職員が把握し、残存能力を活かす支援ができるよう、努めている。 | | |